

Nyonyum 12号

By JICA-VOLUNTEER DAISAKU TAKAGI



カンボジアと日本との交流イベント『絆フェスティバル』に参加！

2月24～26日、首都プノンペンにて、**カンボジアと日本の文化・教育交流イベント『絆フェスティバル』**が開催されました。今年、**カンボジアと日本の友好70周年**、また JICA カンボジア事務所設立30周年でもあり、JICA 事務所は、事業紹介のブースを設け、私たち協力隊員も、それぞれの得意分野を生かして日本文化を体験できる様々な企画や活動紹介ブースを用意しました。企画は、**書道、折り紙、ぬり絵、音楽、サッカー、理科実験、YOSAKOI ソーラン**。日本への関心や憧れを強く抱くカンボジアの若者たちのはじける笑顔がとても印象的でした。



着付け体験コーナー、日本の食文化を体験できる露店やアニメやコスプレなどの現代文化をテーマとした企画などもあり、様々な分野で日本の文化を体験できる工夫がなされていました。3日間で、12,727人の来場者があったそうです。



友好 70 周年の親善大使である南野陽子さん、カンボジアの想いを綴った曲を披露しました。



学校対抗クイズ大会。日本とカンボジアの習慣、文化、ことわざなどのクイズが交互に出題され、白熱していました。



焼き鳥、お好み焼き、たこ焼き、綿あめ、かき氷、抹茶、大福もち、すき焼き丼などの露店も賑わっていました。



コスプレショーの一場面。会場には溢れんばかりの人だかり…左の人気アニメキャラクター、わかりますか？

“YOSAKOI ソーラン”への想い

カンボジアに来て以来、歌い踊るのが好きなカンボジアの人々の姿を見て、**故郷・北海道の YOSAKOI ソーランを通じた交流をしたい**、という想いが芽生えていました。そんな想いから、12 月に一時帰国をした際に、勤務校の卒業生が大学時代に所属していた YOSAKOI チーム「北海道大学“縁”」の法被を譲り受け、勤務校で保管していた鳴子と共に、日本から持参をしていました。

『絆フェスティバル』への参加の案内があり、すぐさま参加を表明。1 月初旬に、協力隊員の有志 9 名でチームを編成しました。国内各地で活動する隊員たちが一堂に集うのは難しく、YouTube を参考にしながらの自主練習で、当日を迎えることとなりました。

当日は、YOSAKOI ソーランの総踊り『よっちゃれ』という演舞を、イベント会場のエントランスにて、3 度披露させて頂きました。多くの方々が足を止め、「よっちゃれや」「どっこいしょ」などの掛け声や手拍子で盛り上げてくれたり、また演舞の後半には、恥ずかしがりながらも鳴子を持って一緒に踊ってくれる方々がいったり、と想定していた以上に盛り上がり、会場に一体感が生まれました。偶然にも、写真の日本の国旗の日の丸が“❤️(ハート)”の形のようにも見えるのは、踊りを通じた両国の友好の証でしょうか!?

決して上手な踊りではありませんが、今後も、YOSAKOI ソーランを通じて、カンボジアと日本との“絆”を深めていく機会を作っていければと思っています。





カンボジアでは、雨季(6月～10月下旬)が終わると、ウエディングシーズンが始まります。2月に、3つの結婚式に参加をしました。日本とはスタイルが異なる驚きの「結婚式」の様子を紹介します！

びっくり! ①

「いったい何が始まるの?」



突如、通勤途中の一般道が通行止めに。大型テントが設営、内外に装飾が施され、2,3日で、華やかな式場が出来上がりました。

びっくり! ②

「新郎新婦はどこに?」



ひな壇には新郎新婦がいません。ひな壇(ステージ)では、歌手、バンド、ダンサーが、大音量で、歌い踊り続けていました!?

びっくり! ③

「主役は誰?」



新婦?と間違えるほどの女性参加者の華やかなドレス姿が印象的でした。衣装替えを行う参加者も。写真は大家・奥さんの義姉。

結婚式プログラム (一例)

*一般的には二日日程で行う

- 6:30 新郎の行列の準備
- 7:00 新郎の行列
- 朝食
- 8:00 指輪交換
- 8:30 僧侶による祝福
- 9:30 髪切りの儀式
- 10:30 祭祀からの助言
- 親族からの祝福
- 新婦による新郎の導き
- 11:00 先祖への祈りの儀式
- 12:00 昼食
- 17:00 夕食

早朝の各儀式



まずは式場で記念撮影(写真1枚目、大家家族と)。果物などのお供えを持って、新郎が待つ式場まで車道脇を約500mほど歩きます(写真2枚目)。その後朝食をはさみ、メインの儀式が始まります(写真3枚目、髪切りの儀式)。

夕食「披露宴」



誘われて、見よう見まねで踊ってみました。カンボジアの踊りは手の動きが特徴的で、きこえない手の動きに、現地の方々に笑われてしまいました。でもとても楽しい時間でした!!疲れたらテーブルの果物を食べて小休をとります。

式場に到着すると、入口では、新郎新婦と両家のご両親が出迎えてくれます(写真1枚目)。式場に入り、招待客の多さにびっくり!! (写真2枚目、テントではなく専用の式場) 一般的には、親族や友人以外にも、親の職場の同僚など、新郎新婦とは直接関係のない方々も招待され、その数500~600人、中には1000人が集まることもあるとか。会場では、既に食事が始まっているテーブルが??これは、開始時刻が17時と記載されていても、招待客は思い思いの時間に式場に到着し、それぞれのテーブルで宴を始める、というカンボジア式。テーブルには、食べきれないほどのお祝い料理が次々と並び、大音量の生演奏を聞きながら食事を取ります。食事がひと段落すると、ステージ前で伝統的な踊りが始まります(写真3,4枚目)。大人こども関係なく、とにかく楽しく満足のゆくまで踊り続けます。特に閉式の挨拶があるわけでもなく、22時過ぎくらいまで続くそうです。新郎新婦も、いつの間にか宴に混じっていました。

結婚式豆知識

- * **髪切りの儀式**：新郎新婦の髪を、親戚や親友がハサミでチョキチョキと切るまねをする儀式。今までの災いから縁を断ち切り、新たな人生の門出を祝うという言い伝えがある。
- * **結婚式の費用**：全て含めて、都市では10000ドル、地方では5-6000ドルが平均。伝統的には新郎が全て負担する。
- * **参加費**：招待客に委ねられていますが、20ドルが相場。式に招待される機会も多く経済的には大きな負担。